



コムソモリスク市の日本人抑留者慰霊碑を訪問した中学生代表団
(7月30日 コムソモリスク・ナ・アムーレ市)

主な内容

- 越後加茂川夏祭りは一部中止
翌日に大花火大会を実施 …… ②③
- コムソモリスク市訪問
中学生代表団の8日間 …… ④⑩
- シエナ・ウインド・オーケストラ演奏会 …… ⑪
- 加茂の風土記 …… ⑫

加茂病院は加茂市の宝 加茂病院を盛り立てましょう



第25回越後加茂川夏祭り大花火大会 今年は8月15日に開催



今年の夏祭りは、十四日朝からの雨で、昼・夜のイベントがほとんど中止となってしまいました。

当日、午後から雨の切れ間に河川敷会場内を御神輿が練り歩き、特設ステージで新潟大学アカペラサークル「A-ice」が歌声を披露してくれました。

雨が止まるたびに会場を囲む諏訪橋や栄橋から、イベントの開催を心配する人たちが大勢訪れましたが、午後四時に催しの中止と花火の延期が決まりました。

十五日には、大花火大会が開催されました。今回は、昭和橋からJR鉄橋までの大ナイアガラ花火と噴水花火はありませんでしたが、午後八時から打ち上げられた花火は夜空をきれいに飾ってくれました。

なお、来年から花火が延期されて打ち上げられる場合は、大ナイアガラも併せて実施することになりました。



海を越えて たくさんの友達と思い出



コムソモリスク市訪問中学生代表団 訪問の記録

平成三年から始まったコムソモリスク市との交流も、今回で二十年目になります。今年は加茂市の中学生代表団十六名が七月二十八日から八月四日まで、コムソモリスク市を訪問して、交流を深めてきました。この八日間で代表団の一人ひとりを感じたことを紹介します。

交流の深まる場に

立ち会って



団長
七谷中学校長
吉原 郁夫

加茂市が例年実施しているコムソモリスク・ナ・アムーレ市（以下コムソモリスク市）の生徒と交流する事業は加茂市が誇る伝統的な事業です。縁ありまして今年度、加茂市内在住の中学生十二名と一緒に行ってまいりました。

飛行機が苦手な私でしたが、派遣団に選ばれた子どもたちの笑顔に救われ、あっという間にハバロフスク空港に到着しました。

特に私の心に残っているのは、この交流のきっかけとなりました、シベリア抑留者の方々の碑を参拝させていただいたことです。その



時、改めて戦争で亡くなられた方々のご冥福と、また非戦の誓い、更にこのように交流をとおして、平和を望むことの意味を感じました。

また、コムソモリスク市の幼稚園児から小学生、中学生、高校生との交流では、夏休み中にもかかわらず、どの場所でも大歓迎を受け、加茂の中学生と、ロシアの子どもたちの交流が深まっている場面を随所に見させていただき、非

常に嬉しく、心温かくなり、本当に意義のある交流であると痛感いたしました。

このような貴重な経験をさせていただいた加茂市をはじめ多くの方々に感謝申し上げ、更なる交流の発展を祈っております。

ロシアを訪問して



七谷中学校教諭
金澤 克博

この度ロシアを訪問させていただき、多くのことを学ばせていただきました。

市庁舎の訪問では、コムソモリスク市の人口の三分の一が未成年であるとの説明を受けました。その後の第一番学校、保育園、創作宮殿や青少年センターなどの諸施設の訪問やキャンプ場コスモスでの体験を通して、子供や若者を大切にしている街であることが実感できました。学校はもちろんのこと、様々な施設、そこに関わる人など、街全体で子どもを育ててい

るといった印象を受けました。まさに「青年同盟が建設した街」という市の名前の由来通りであると感じました。

また、代表団の生徒達が訪問を通して日一日と成長していく姿を目の当たりにすることができたことも印象深いものでした。訪問の日程の中で、生徒達の目つきがどんどん変わっていき、代表生徒としての自覚が深まり、課題を自らの力で解決していくこうとする意欲が高まっていく姿は頼もしいものでした。ぜひこの貴重な経験と成長をこれからの人生に生かして欲しいと願っています。

七泊八日間の中で、「スパシーバ」という言葉を何百回となく使いました。振り返って、日本で



「ありがとう」という言葉を果たして一日何回口にしているだろうか。感謝の気持ちを持ち、それを言葉に表すという謙虚な心を持つことの大切さも再認識させられた訪問でした。この貴重な訪問の機会をいただいたことに感謝申し上げます。スパシーバ！

ロシアで学んだこと



加茂中学校3年
石川 澄華

私が立てた「一回り大きくなって帰国する。」という目標が達成できたか、自分では評価しにくいのですが、今回の訪問は、大きな変化をもたらしてくれました。

まず、細かい気遣いの大切さです。ロシアの子供達は手をつないでくれ、水たまりや歩きにくい所があると、すぐ教えてくれました。それは小さな気遣いだけど、相手の気分を良くしてくれます。

次に、いつも笑顔でいることです。それもロシアの子供達に影響



を受けました。ロシアの子はみんないつも笑顔で楽しそうでした。ぶすつとしていられるよりも、笑っている方が楽しく毎日が送れるはずです。なので、最近はどうな時でも笑うようにしています。

最後に、今回の訪問を支えて下さった沢山の方々、そして、一緒に沢山の思い出を作った十一人のみんな、本当にありがとう。

ロシアでの貴重な体験



加茂中学校 3年
泉 田 英 和

ロシアへ行く前は、期待で胸が一杯の中、上手に会話ができるのが一番不安でした。けれども、ロシアの人達は皆テンションが高く、フレンドリーですぐに仲良くなる事ができてとても嬉しかったです。不思議なことですが、言葉が伝わらなくても、自然と友達になれたのです。日本とは違い、ロシアにはオープンな性格な人が



多くて、正直、驚きました。コムソモリスク市では、僕達を温かく歓迎してもらいました。

僕はこの旅を終えて、日本とロシアのたくさんさんの文化の違いに気づき、多くのことを学ぶことができました。この交流を通して、僕は殻に閉じこもりがちだった自分の性格の殻を破り、また一歩踏み出すことができたと思います。この経験で得たものを今後、生かして行きたいです。

八日間の思い出



加茂中学校 2年
保 坂 菜里美

私は、ロシアで過ごした八日間を通して、たくさんを経験し、たくさんを学びました。

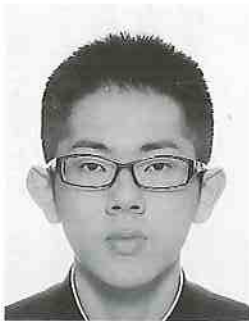
まず一つ目に、私は今回初めて外国に行きました。外国ではもちろん言葉は通じません。相手に質問されても、何を聞かれてるか何と答えていいのかわからず、戸惑ってしまうことが多くありまし

た。

二つ目は、料理の味の違いです。今まで食べたことのない料理ばかりでした。苦手だと感じる味もたくさんあり、何も食べたくなかった日でも少なくはありませんでした。

私はロシアで過ごした八日間のうち、辛いと思わなかった日は一日もないと思います。でも、楽しいと思わなかった日も一日もありません。たくさんを経験することで、自分自身とても成長することができました。辛い思いや、たいへんな思いは本当にたくさんしたけど、でもそれ以上にとっても楽しくていい思い出がまた一つ増えて良かったです。

二度とないこと



葵中学校 3年
池 田 成 克

ロシアの子ども達の笑顔、会話、デイスコダンス。沸々と蘇ってくる。ロシアに行けて良かった。自



分はこの交流で何に気付けただろう。私が大好きになったデイスコダンス。積極的に開放的なロシアだからこそある文化だ。言葉がなくても、仲良くなりたいたいという気持ちがあれば、コミュニケーションがとれる。同じ体験を共有したから会話ができたんだ。そうだ。代表団のメンバーと仲良くなれたのも、同じ体験を共有できたからだ。こんな体験ができたのも、先生方、市役所の皆さんのおかげだ。感謝しなくては。そう言えば、ロシアの生活環境は少し悪かったけど、教育環境は良かった。日本とロシア、それぞれにいいところがあるんだ。ロシアにもう一度行きたい。今度こそ、積極的に交流し

たい。でも、二度とこんな経験はできないんだろうな。
帰ってきた晩、寂しい気持ちになりながら、眠りについた。

ロシアで学んだこと



葵中学校3年
涌井杏奈

私はこの八日間で笑顔の大切さを学びました。ロシアに行つてたくさんの人と出会って、戸惑ってしまうこともありましたが、でも彼らはいつでも笑顔で私たちを迎えてくれて、話すときも、しっかりと目を見て笑顔で話しかけてくれました。生まれた国も、育った環境も、話す言葉も、何もかも違うのに、笑顔ひとつで通じ合えた時には本当に嬉しかったです。

そしてもう一つ、私はロシアのすばらしさと日本のすばらしさを知ることができました。これは、日本を離れ、ロシアに行かなければ絶対に気づくことのできなかったことです。



この旅で私は本当に成長することができました。それからもいろいろな国に行つてこうして自分を成長させていけたらいいと思います。

私にこのような機会をくださった方々に心から感謝します。ありがとうございました。

本当に行つてよかったです。

SMILING IS BEST



葵中学校2年
齋藤優里愛

今回のロシア訪問で一番印象に残ったことは、言葉の通じないロシアの人々と友達になれたことだ。昨年、ガールスカウトの国際キャンプでコミュニケーションをとるためには、いつも笑顔で、積極的に行動することが必要だということを経験した。ロシアでもそれが役立った。言葉の壁は想像以上に厚く、全くといっていいほど通じなかった。けれど笑顔のおかげでたくさんの人と友達になれた。

キャンプ地コスモスでのパートナー、ターシャとはすぐに仲良くなることが出来た。別れの時は、すごく悲しくて泣いたけど、抱きしめてくれてうれしかった。一緒にダンスを踊ったり、プールで泳いだり本当に楽しい時間を一緒に過ごすことができた。

私は今回の経験を生かしながら、それを多くの人に伝えたいと思う。



「心からのありがとう」



葵中学校2年
斐辺甲

出発前の僕は、ロシアの人達とうまく接することができると不安で仕方ありませんでした。でも、ロシアに着いて初めて食べた料理は、本当においしくて、これからの食事がとても楽しくなりました。ブドウと間違えて食べたオリブはおいしくなかったけど…。

コ市で訪問した市役所や学校では、ロシアの人達の温かい笑顔に



迎えられ、ロシアのみんなと仲良くなりたいたいと思いました。でも、やっぱり恥ずかしくてあまり積極的になれませんでした。今思うと、すぐもったいない気がします。

コ市での一日目の夜、すぐに寝ようとしたのですが、その日のことを振り返ったり、明日のことを考えたりしていると楽しすぎて眠れませんでした。

楽しく過ごしたキャンプ地でのお別れの時、お世話になった人達に心からのありがとうを何度も何度も言いました。バスでホテルへ帰ってベッドに入った僕は、少しだけ泣いてしまいました。

帰国の日、コ市からハバロフスクに向かうバスでの移動時間は、まだ帰りたくなくてもとゆっくり走っていると願いました。

長かったようで短かったロシアでの滞在。本当にたくさんあった日程の中で一番印象的だったのはキャンプ地「コスモス」のプログラムでした。主に現地の方々との交流だったのですが、私は事前研修の間もその日程が一番楽しみで



七谷中学校3年 櫻井 美菜子

ロシアで気づいたこと



笑顔で相手を想って接すれば言葉の壁さえ越えられる。—このことを僕からクラス、クラスから学年へと伝えていきたいです。一生の宝をありがとうございました。



あり、少し不安なものでありました。なぜかという私は初対面の人との交流が苦手だったからです。しかしその不安をかき消すかの様にコムソの方々はフレンドリーで私は同い年の女の子に手を引かれ終始一緒に行動しました。名前や年齢を英語で聞いてくれたので私も英語で返答しました。そんな気遣いがとても嬉しかったです。言葉はもちろん通じませんが私はずっと笑顔でいることを心掛けました。会話とまではいきませんが笑顔のコミュニケーションはできたと感じました。この事業を通して改めて笑顔の大切さに気付かされました。

こんな、普段わからないような経験をさせてもらえて、本当に嬉しかったです。ありがとうございました。

日本の良さは、技術が進んでいることと、食べ物がいっぱいとこです。ロシアに行くと、ホテルに泊まったんですが、日本にはあるものがなくて、かなりショックを受けました。それと、ご飯が毎回大量に出ました。しかも口に合わないものがほとんどで、日本料理のおいしさを思いりました。

「こんな所にすみたいなあ」と思いました。学校はともかく、教科書の内容も充実していました。

ロシアの良さは、環境と教育です。街の至る所に緑があり、とても過ごしやすいです。その中に学校や青少年センターなどがあり、

私はこのロシア訪問を通して、ロシアと日本、それぞれの良さを体験しました。



若宮中学校2年 明田川 未 来

ロシアを訪問して



パリシヨエ・スパシーバ 本当にありがとう



若宮中学校2年 幸千 家千 菅

七月二十八日、少しの不安を抱えながら飛行機に乗りました。二時間後に窓から見えたアムール川の、美しく広大な景色に感動しました。

コムソモリスク市に着いてから、まず驚いたのが食事です。かなりのボリュームなことに加え、甘かったり、オリーブが丸ごと入って

いたことには、衝撃を受けました。日本料理らしいものもあり、おいしかったです。

また、学校の訪問では、興味深いことを聞きました。ロシアでは、夏休みが三カ月もあることや、科目が日本の九教科に対して倍ぐらいあることを知りました。小学生から高校生までが一つの学校で学んでいます。

私が、この一週間で一番心に残っているのが、「コスモス」というキャンプ地での活動です。私は、そこでイーラというパートナーに出会いました。彼女とプログラムを進めていく中で、会話をすることができました。彼女は、英語がとても上手で、私はもつと英語を勉強してくるべきだったと後悔しました。しかし、身振り手振りでコミュニケーションをとることができました。二日間のプログラムでしたが、別れ際には「大好き」といって泣いてくれました。感動のあまり、もらい泣きしました。

この一週間は、私にたくさんの知識や経験、感動を与えてくれました。市長さんをはじめ、訪問団を支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。



貴重な体験



須田中学校3年 長谷川 貴信

自分は、「コムソモリスク・ナ・アムール市」に行く気なんて全然ありませんでしたが、自分にとっていい経験になるなあと、行くことにしました。

いざ、行くことが決まると、不安だらけで「行きたくない」という気持ちも出てきましたが、自分で目標を立て、行っていくことが



できたので良かったです。

目標をクリアしたことにより、自分を大きく変えることができました。また、経験したことのないことや、体験したことのないことなど、自分にとってとてもプラスになったものになりました。

自分は今回のこの訪問で自分を変えることができたので、また機会があったら参加してみたいです。そして、多くの人にも、こういうものに積極的に参加してもらいたいと思います。

スパシーバ



燕中等教育学校 2年
市川 雄

中学生ロシア派遣メンバーの一人に選ばれた時、嬉しい気持ちの反面、不安で一杯でした。しかし、何回かの事前研修を重ねるうちに、次第に期待へと変わっていきま

した。事前研修では、ロシアと日本の歴史や地理、お金の価値やロシア語の基礎、ロシアの歌など、今まで知らなかったロシアについて



色々な事を学びました。

コムソモリスク市への研修旅行は、期待以上でした。キャンプ地では、たくさんの同世代の子ども達と交流し、大変良い経験ができました。他に、青少年センター、学校、市役所、動物園等を訪問し、充実した八日間を過ごしました。

このような貴重な体験をする機会を与えてくださった方達に感謝したいと思います。そして、この経験を生かしていかなくてはならない、と思います。スパシーバ。



コムソモリスク・ナ・アムール市訪問 中学生代表団

吉原 郁夫 (団長：七谷中学校長)
金澤 克博 (七谷中学校教諭)
石川 澄華 (加茂中3年) 泉田 英和 (加茂中3年)
保坂菜里美 (加茂中2年) 池田 成克 (葵中3年)
涌井 杏奈 (葵中3年) 齋藤優里愛 (葵中2年)
渡辺 甲斐 (葵中2年) 櫻井美菜子 (七谷中3年)
明田川未来 (若宮中2年) 菅家 千幸 (若宮中2年)
長谷川貴信 (須田中3年) 市川 雄 (燕中等2年)
齋藤 淳 (加茂市総務課参事)
エレナ スリュウサレバ (通訳：新潟大学大学院生)

コムソモリスク・ナ・アムール市訪問日程

- 7月28日 新潟空港からハバロフスクへ。インツォーリストホテル泊。
- 29日 バスでコムソモリスク市へ。市役所表敬訪問、第1番学校、動物園「ピトン」、郷土博物館を訪問。
- 30日 市内見学、日本人抑留者慰霊碑訪問。第79番保育園、青少年センター「ユーノスチ」、レーニン地区子供創作宮殿訪問。保養所「シャルゴリ」泊。
- 31日 キャンプ地「コスモス」へ。セレモニーやコンサートなどキャンプ地プログラム
- 8月1日 キャンプ地「コスモス」のプログラム。
- 2日 航空機製造工場「クナツパ」の博物館見学。ロシア料理教室を体験。
- 3日 美術館で創作体験。国立青少年会館を訪問。
- 4日 早朝、バスでハバロフスクへ。現地時間で午後2時出国。日本時間で午後2時10分新潟空港着、帰国。加茂市役所へ。



シエナ・ウインド・オーケストラ演奏会

10月23日(土) 午後3時開演 (午後2時30分開場)



PHOTO Rikimaru Hotta

1990年に結成されたプロフェッショナルのウインド・オーケストラ。現在、東京を本拠地に演奏活動をしており、定期演奏会のほか全国各地での音楽祭やイベントへの参加、また音楽鑑賞教室等の青少年育成事業等への出演などで活躍している。またオーケストラ編成による演奏のみならず、管楽器の特色を生かした多様なアンサンブルユニットによるコンサートや管楽器クリニック等の活動も積極的に展開しており、日本を代表するウインド・オーケストラとして、国内吹奏楽愛好家の先頭に立つフラッグシップオーケストラとして高い人気を誇っている。

プレイガイド

ミュージックショップ・アベ ☎52-1999 小池めがね ☎52-2321
市民サービスセンター ☎53-1180 加茂文化会館 ☎53-0842

主催：加茂市 後援：新潟県吹奏楽連盟 助成：(財)地域創造

お問い合わせ 加茂文化会館 ☎53-0842

加茂文化会館

全席指定

S席5,000円 A席4,000円

(学生 S席4,500円 A席3,500円)

※当日各500円増

未就学児の入場はご遠慮ください



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。

だいち 大子町に残る加茂箆筒

商人の手から手へ

加茂と縁のある茨城県大子町の家に、明治初期制作とみられる箆筒が残る。縦九〇×幅八五×奥行き二七センチほどの小型であるが、総桐箆筒である。デザインこそ古めかしいが、れつきとした加茂の箆筒である。

どうして加茂箆筒が、越後から遠く離れた常陸大子町に残っていたのだろうか、それは裏側に書かれた持ち主の名やこれら商人の商売から読み取れる。

箆筒の裏側の墨書には、年代順に次のようにある。

「北越賀茂 関弥吉 明治二十年十二月①、明治廿九年十月十五日 右関弥吉殿ヨリ買受 鈴木龍三所有②、常陸国大子町 川口利作 大正二年十一月廿二日鈴木氏ヨリ求③」。

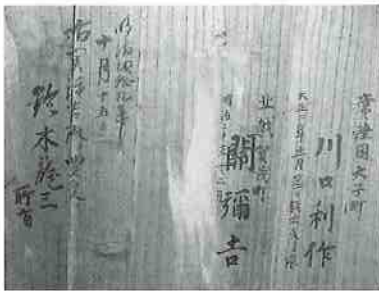
加茂の風土記

これら所有者には共通した関わりがあった。それは三人とも蒭蕪に
関係の商人だったことである。①は加茂上町で江戸末期から蒭蕪粉

を販売していた商人とみられる関弥吉である。②の鈴木は大子へ進出した東京高倉商店派遣の商人である。

③は上条の片平町出身で大子町に進出し蒭蕪関係の商売で成功した川口利作である。彼が最終的に所有し現在に至っている。

明治十年（一八七七）頃の「加茂町誌資料」（旧版『加茂市史』上巻）では、この頃、年間の箆筒生産量は、



箆筒が三人の手に渡ったことを示す裏書き（上）
大子町に残る加茂箆筒（右）



平均四百棹で、一棹二円、近傍各地へ輸送、という。近傍を遥かに越えて大子町に加茂箆筒が運ばれていた。

安政三年（一八五六）、袋田（大子町）蒭蕪会所の許可を経て加茂上条に蒭蕪荷を仕入れた商人らの中に弥吉（榎屋）もいて、加茂町商人であるから箆筒を取得できたことはいなづける。次の取得者鈴木は商用を通じて弥吉から買い受けたものであろう。

遅くとも箆筒はこの段階で大子へ運ばれたものと考えられる。蒭蕪荷の一駄（四俵）は四五貫目余り（約一六九キログラム）で、明治十年で三三円余りである。鉄道が通じていない頃は馬などにより運ばれた。箆筒は蒭蕪より遥かに軽い荷物であった。

最終的な箆筒所有者の川口利作は、片平町の商人川口惣蔵の二男で万延元年（一八六〇）に生まれ、明治十九年（二十六歳）に、常陸開産会社の桜岡八郎から大子町に土地と土蔵を借用して、蒭蕪・和紙原料商売の拠点とした。以来、前後して同様に大子町で商売を開始した片平町川口利吉とともに、大子の商業活動をリードした。

大子町に残る加茂箆筒にはこうした商人の商いの軌跡が残されていた。

（関 正平）

猛暑で子供プールは大にぎわい

大にぎわい

猛暑続きの今年の夏、駒岡の子供プールは、連日、水遊びをする子どもたちでにぎわいました。付き添う大人も、ひとときの「涼」に、ほっとしているようでした。



人口のうごき

8月1日現在
世帯 10,150 (-2)
人口 30,765 (-27)
男 14,866 (-12)
女 15,899 (-15)
()内は前月比
(7月異動分)
出生 18 (男8女10)
死亡 33 (男13女20)
転出 35 転入 23